



# GLOBAL MAPPING NEWSLETTER

# 34

## 地球観測サミットと地球地図

アシュビンドウ・シン博士  
国連環境計画



アシュビンドウ・シン博士

去る2003年7月31日に、閣僚級の第1回地球サミット(EO)が米国ワシントンD.C.において開催されました。これは2003年6月2日にフランスで開催されたG-8エビアンサミットで呼びかけられた行動計画のフォローアップとして、地球規模の環境問題や経済問題を理解し取り組むために、政府間や国際社会の包括的で調整された持続可能な地球観測システムの構築の促進を目的として開催されたものです。このサミットでのねらいは、包括的で調整された持続可能な地球観測システムの構築のための概念の枠組みや、実施計画を整備するためのプロセスに着手するものでした。

地球観測サミットを受けて包括的で調整された持続可能な地球観測システムの構築のための実施10年計画を作成するために、地球観測に関する政府間作業部会(GEO)が立ち上げられ、8月1日～2日まで二日間にわたり開催されました。この結果、利用者の要望および普及、データ利用、基本設計概念、人材育成および国際協力の5つのサブグループが設立されました。ちなみにGEOは、欧州委員会A. Mitsos 研究総局長、文部科学省結城審議官、南アフリカRob Adam 科学技術局局長および米国C. Lautenbacker 商務次官兼海洋大気庁長官が共同議長を勤めています。

GEO-2は、2003年11月28日～29日にイタリアのバベノにおいて開催され、GEO-3は、南アフリカ

のケープタウンにおいて開催されました。GEO-4会合および地球観測サミットIIが東京で行われ、地球観測サミットIIでは、日本国首相が開会宣言をされました。このサミットでは、枠組み文書と声明が採択され、これにはすでに45を超える国々が取り組んでいます。

枠組み文書は、各国政府により長い交渉過程を経てまとめられた最も重要な文書です。10年実施計画は、まもなくタスク・チームにより作成されます。各国政府は、2004年9月の会合でガバナンスの問題を審議します。次回のGEO-5はオタワで開催され、また地球観測サミットIIIは2005年2月にブリュッセルで開催されます。

ISCGM事務局の努力により、地球地図はデータ利用サブグループ報告書に盛り込まれました。ISCGM丸山弘通事務局長が、東京で開催された地球観測サミットIIに参加するとともに、ISCGMは、サミット期間中に地球地図サイドイベントを開催しました。詳細は<http://www.earthobservationsummit.gov>を参照して下さい。

(シン博士は1996年から顧問としてISCGMを支援しています)。



サミットでの小泉首相

## 地球地図ポータルサイトの構築について

丸山弘通

地球地図国際運営委員会事務局長

2003年7月に開催された第10回地球地図運営委員会において、地球地図利用促進の観点から、地球地図をウェブマッピング技術を用いてブラウザ上で簡単にみられるようにすることが決議されました。時を同じくして、ESRI社からテイラー ISCGM 委員長宛に同社のウェブマッピングシステム製品を ISCGM に寄贈したい旨の手紙が寄せられ、第10回委員会において紹介されました。

ISCGM 事務局ではウェブマッピングに関する決議の実施を円滑に進めるという観点から、ESRI社の申し出を検討した結果、地球地図利用促進に大いに寄与すると考えられることから、同社の申し出を受け入れ地球地図に関するポータルサイトを事務局

の位置する日本国国土地理院内に構築することとし、現在細部の詰めを行っています。

今後は、寄贈受入れに関する契約を交わしたあと、技術的な詰めを行い、ポータルを構築していく予定です。なお、ポータルサイトの構築に当たっては ISO/TC211 等で進められている標準的な技術を採用することとしています。

今回の地球地図ポータルサイトは3年という寄贈期間内の期限付き運営であり、その間の利用者の声を踏まえ、その後のより良い提供のあり方を考えていく予定です。

## 国連本部（ニューヨーク）で地球地図ポスターパネルを展示

4月14日から30日の間、ニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発委員会第12回会合」（CSD12）が開催されました。4月19日～30日の2週間は、2002年のWSSD「実施計画」のフォローアップを目的とするCSD12レビュー・セッションとなり、水、衛生及び居住問題等に関する取り組み状況の評価が行われました。ISCGMでは、地球地図活動を紹介するために、サイドイベントに参加しました。

サイドイベントには各国、国際機関、NGOなどから多数の参加があり、盛況なイベントになりました。ISCGMも、ハイレベル・セグメント（4月28日～30日）期間中に行われたCSD12パートナーシップフェア・ポスター展示に地球地図ポスターパネルを展示し、地球地図の目的や整備状況などについて、積極的にアピールしました。

その結果、多くの参加者が地球地図ポスターパネルの前で興味深く、足を止めていました。

次回会合（CSD13）では、益々サイドイベントが拡大される見込みですので、これからもISCGMはこれらのイベントに積極的に参加し、「地球地図プロジェクト」の啓発に努めることにしています。



ポスター展示

## アルジェリアが地球地図に参加

アルジェリア国立地図リモートセンシング研究所が2004年6月7日に地球地図プロジェクトに参加しました。アルジェリアの参加により、2004年6月10日現在でのプロジェクト参加国・地域の合計は133となりました。

## 講演会「地球観測における地球地図の貢献」を開催

岡谷隆基

地球地図国際運営委員会事務局



講演会

地球地図国際運営委員会（ISCGM）は、4月24日、国土地理院との共催で、講演会「地球観測における地球地図の貢献」を日本科学未来館（東京）で開催しました。

当講演会は、第2回地球観測サミットに先立って開催された第4回政府間作業部会（GEO4）のサイドイベントとして開催されたもので、全地球陸域を対象とするデジタル地理データである地球地図が地球観測プロジェクトにいかにか寄与できるか、をテーマとして行われました。

当日は、海外から国連環境計画（UNEP）のアシュビンドゥ・シン博士、国連食糧農業機関（FAO）のディートリヒ・E・ライヒナー博士の2名の講演者を迎えるとともに、国内から建石隆太郎博士（千葉大学助

教授）、田殿武雄博士（（独）宇宙航空研究開発機構）のほか、矢口彰国土地理院参事官、地球地図国際運営委員会（ISCGM）からは丸山弘通事務局長が講演を行いました。内容は、国際機関における活動の話題提供から、土地被覆データ整備といった技術的な部分まで広い範囲に及びました。

講演会は、土曜日の午前にもかかわらずGEO4に出席した外国人も含め約50名の参加があり、終了後も活発に意見交換が行われました。各講演のタイトルは次のとおりです。（プログラム順）

### ・開会の挨拶

（矢口 彰：国土地理院参事官）

### ・全球の地球観測データの利用の基礎としての地球地図

（丸山弘通：ISCGM事務局長〔国土地理院地理調査部長〕）

### ・全球の土地被覆データの整備

（建石隆太郎：千葉大学助教授）

### ・地理情報及び国連ミレニアム開発目標及びWSSD実施計画

（アシュビンドゥ・シン博士：国連環境計画）

### ・空間情報管理及び主題別利用における国連食糧農業機関の活動

（ディートリヒ・E・ライヒナー博士：国連食糧農業機関）

### ・ALOSの概要とその利用

（田殿武雄：（独）宇宙航空研究開発機構）

## 事務局から

### ・ISCGM が国連経済社会理事会アドバイザ資格を申請する

2002年、南アフリカで開催されましたWSSDにおいてISCGMは、NGOとして「実施計画」の実現に取り組むタイプ-2のパートナーシップ/イニシアティブとして登録されました。したがって「実施計画」の進捗をフォローアップするための国連の枠組みである持続可能な開発委員会（CSD）において、地球地図プロジェクトの活動をアピールしていくことが必要となりました。

2004年2月の国連経済社会理事会において、WSSDで登録されたNGOはアドバイザ資格の申請を行うことにより、第12回CSD（2004年）および第13回CSD（2005年）に参加できる旨の決定を行いました。

それともなって、CSDの国連担当部局からWSSDにおいて登録されたNGOに対し、CSDの活動に参加する意思があればアドバイザ資格を取得するようアドバイスがありましたので、ISCGMは2004年3月にアドバイザ資格を申請しました。

アドバイザ資格：

1946年からNGOが国連審議に参加する道を開くために始まったアドバイザ資格付与において、現在では2400以上の機関がこの資格を有しています。資格種類は①総合②特殊③ロスターの三種類があり、

地球地図関連機関では、ISO（総合）、ICA（特別）、FIG（ロスター）、ISPRS（ロスター）が有しています。国連経済社会理事会のアドバイザー資格を得るにあたっては、当該機関の活動の種類や領域と、国連社会経済委員会とその関係機関が期待している支援活動等が

考慮されます。最終決定は国連経済社会理事会でなされ、資格取得までにはおおよそ1～2年の期間が必要であるといわれております。

### ・米国連邦地理データ委員会のネバート氏が地球地図国際運営事務局を訪問

3月26日、D.ネバート氏（米国連邦地理データ委員会：クリアリングハウス・コーディネータ）が、国土地理院にある地球地図国際運営委員会事務局を訪問しました。

この中で、ネバート氏は丸山事務局長（地理調査部長）等と地球地図データについての意見交換を行いました。

主な意見交換内容は：

- ・地球地図仕様の改定に向けた地球地図 GML 符号化について
  - ・地球地図応用スキーマ
- など、技術面での有意義な意見交換でした。

### ・国連地名専門家グループ会合に ISCGM がオブザーバーとして参加

平成16年4月20日から29日まで、国連本部（米国ニューヨーク）で開催された、第22回国連地名専門家グループ会合（UNGEGN）に、地球地図国際運営委員会が団体オブザーバーとして参加しました。

このグループ会合は、地名に関する用語の定義、地名の表記方法、一国の領域を超える地域及び海域の地形名等の統一及び標準化のための方策を議論することを目的とするもので、国連地名標準化会議の下

部組織となっています。

この会合において地球地図に関連すると考えられるのは、以下の事項でした。

- ・国名及び10万人以上の主要都市名に関する情報の、UNGEGN データベースウェブサイトを構築する予定である。
- ・ヨーロッパ地名 GIS ネットワークプロジェクト（Euro Geo Names）の報告がありました。

## 地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

### 2004年

- ・7月10日～12日、トルコ、イスタンブール  
IC WG II / IV  
第5回空間データベースの増分新及びバージョンアップに関する ICA/ISPRS/EuroGeographics 合同ワークショップ
- ・7月12日～23日、トルコ、イスタンブール  
第20回 ISPRS 会議
- ・10月3日～7日、インドネシア、ジャカルタ  
FIG アジア太平洋地域会議
- ・10月18日～22日、ドイツ、ミュンヘン  
国連災害管理のための宇宙技術利用に関する国際ワークショップ

- ・11月7日～10日、ドイツ、ベルリン  
第19回国際 CODATA 会議

### 2005年

- ・4月16日～21日、エジプト、カイロ  
FIG ワーキングウィーク 2005 及び X X VIII 総会
- ・4月17日、21日、エジプト、カイロ  
第12回 ISCGM 会合
- ・7月9日～16日、スペイン、ラコルニャ  
X X II ICA 国際地図学協会会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: [sec@iscgm.org](mailto:sec@iscgm.org)